

令和8年
2026年

2月13日
金曜日

第11890号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



丸大食品が2026年春季新商品発表会を開催②……P8

- ▶ 日本食肉協会が食肉流通戦略検討会、兵庫県芦屋市の竹園訪問……P2
- ▶ スターゼン第3四半期決算は増収増益、国産豚肉の販売堅調……P3
- ▶ [役員人事]スターゼン(4月1日付)……P3
- ▶ 第2回鳥インフルエンザワクチン技術検討会を開催一農水省……P4
- ▶ 福留ハムの2026年第3四半期は売上高184億1100万円、前年同期比4%減…P4~5
- ▶ トーホーグループ、総合展示商談会を東京ビッグサイトで開催……P5
- ▶ 大阪市場で全農共励会、和牛の最優秀賞はからつ前田畜産、交雑種はノースパレー……P6
- ▶ 横浜市場が「関東・東北フェア」最優秀賞はミートコンパニオンが4001円で落札……P6~7
- ▶ マルイチ産商26年3月期第3四半期決算売上高2266億3700万円で11.9%増……P7
- ▶ 豚井屋TONTON、「東京 新三河島店」がオープン……P7
- ▶ 丸大食品が2026年春季新商品発表会を開催②……P8
- ▶ [輸入牛現物相場]相場は前週維持、依然として荷動きは停滞……P9
- ▶ [ブロイラー市中現物相場]国産冷凍モモ引き合い強まる……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]12日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]12日…P11

注目のヘッドライン

日本食肉協会が食肉流通戦略検討会、兵庫県芦屋市の竹園訪問

一般社団法人日本食肉協会は7日、令和7年度食肉流通戦略検討会を開催した。

…詳細はP2

スターゼン第3四半期決算は増収増益、国産豚肉の販売堅調

…詳細はP3

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎(03)3919-2929 FAX(03)3919-2930
総務 / ☎(03)3919-2980 FAX(03)3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

日本食肉協会が食肉流通戦略検討会、兵庫県芦屋市の竹園訪問

一般社団法人日本食肉協会(布川勝一会長)は7日、令和7年度食肉流通戦略検討会を開催した。神戸支部の案内で兵庫県芦屋市の(株)竹園(福本吉宗社長)を訪れ「あしや竹園芦屋本店」「芦屋軒」などを訪問した他、同社のコロッケ工場を見学。また、見学会終了後には神戸市中央区の神仙閣で食肉流通戦略検討会議を行い、今後のスケジュールや全国会議でのテーマなどについて協議した。

参加者は午前中、ホテル竹園芦屋に集合。竹園が運営するあしや竹園芦屋本店、芦屋軒の店舗を希望者ごとに分かれて訪問し、各店で説明を受けながら同社のこだわりや特長などを研修した。あしや竹園芦屋本店には福本社長(下写真)が同行し自社の店舗について説明。神戸ビーフ、兵庫県産和牛、国産和牛などをメインに取り扱う同店では、顧客誘引の一助として店舗前に各部位の特長を記したボードを設置し、肉の硬軟や霜降り具合を分かりやすく説明する他、部位に番号を付けることで買いやすさを追求している。また、店内には3千円以上の購買で挑戦できるガチャガチャを設置して客単価向上や買い物の楽しさを演出する工夫を凝らしており、幅広い顧客層から高い評価を得ている。精肉は特に脂質にこだわっており、プロ野球の読売ジャイアンツが宿泊施設として利用しているホテル竹園芦屋同様に量を食べてもくどさが残らない品ぞろえを重視。コロッケなど総菜類も人気で、こちらも素材の味を生かしたあっさりとした味わいを特長としている。

店舗見学を終えた一行はホテルに戻り昼食。開始前には福本社長が改めて同社の歴史や社長就任に至る経緯、店舗や商品に対するこだわりについて説明を行った後、神戸中央畜産荷受(株)の丸橋弘資社長があいさつし食事を取った。昼食後は竹園コロッケ工場に移動し、従業員の案内を受けながら揚げ物類などを製造する過程を見学。その後、神戸市に移動し食肉流通戦略検討会議を行った。

小憩の後開かれた会議の冒頭、村井洋介副会長が開会あいさつを述べたのに続き、先般亡くなった岸本七江近畿ブロック長の父・岸本正男氏に全員で黙とう。続いて布川会長が「今回の会議も来期につながる重要事項を決定していくもの。忌憚ない意見



をお願いしたい」とあいさつした。議事では今後のスケジュールや全国会議でのテーマなどについて協議し、事務局の説明を受け決定事項の確認を行った他、現状の課題や対応策については参加者からさまざまな意見が出された。

会議終了後には懇親会を開催。開催地を代表し岸本ブロック長が謝辞を述べた後、「私事ではあるが、先日亡くなった父は本会の前身である三水会で役職を勤めていたこともあり、私がここで一つの役割を果たしているのも父のおかげだと感謝している。本日は会食を通じ活発な意見を交換していただきたい」とあいさつ。続いて布川会長が「食肉専門店を取り巻く環境は少子高齢化や慢性的な人手不足、円安による物価高で厳しい状況に変わりはないが、われわれは若い集団ということで知恵を絞ってこの難局を乗り切っていきたい。街に根差した店が存在価値を高め、持続可能な未来をつかみ取るまで皆さんと頑張っていきたい」とあいさつした。来賓として兵庫県食肉生活衛生同業組合の辰己真一理事長が来賓祝辞を述べた後、永谷武久副会長による献杯のあいさつで懇親に移った。

スターゼン第3四半期決算は増収増益、国産豚肉の販売堅調

スターゼンは12日、2026年3月期第3四半期決算を発表した。売上高は3441億2千万円(前年同期比3・0%増)、営業利益は69億6200万円(9・3%減)、経常利益は87億7千万円(1・0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は63億6300万円(5・7%増)となった。

同社グループは「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」をテーマに据えた中期経営計画の最終年度を迎えた。計画では「海外事業の強化」を掲げており、その一環として昨年4月に豪州Wagyuの肥育企業であるYORKRANGE社の全株式を取得したことに続き、10月にシンガポール食肉加工販売会社ADIRECT SINGAPORE社を完全子会社化した。豪州Wagyuの生産に直接関与しつつ、中国や東南アジアを中心とした第三国への販売までトータルに手掛けることで、サプライチェーンの強化に取り組む。

また近年、拡大する海外での和牛マーケットに向けて、同社はこれまでも九州の阿久根を拠点とした輸出専用ブランド「AKUNE GOLD」を中心に輸出を推進してきたが、より安定した供給体制を構築するため、東北エリアを拠点としたブランド「AOMORI GOLD」を立ち上げた。今後は2ブランド体制で、「刺激的な体験で食を楽しく人生を豊かにする情報をグローバルに発信する和牛」という価値を世界中に届ける。

国内においては昨年11月、関西の基幹拠点として伊丹営業センターを新築移転した。新伊丹営業センターの敷地面積は従来の3倍、保管能力は従来の5倍あり、西日本エリアでの販売拡大と物流の効率化を実現する。

サステナブルな事業運営の一環として、昨年6月、アニマルウエルフェアポリシーを策定・公表。また、温室効果ガス削減の取り組みとして、8月に業界初となる水素トラックの導入、11月に新伊丹営業センターに

太陽光発電の設置、12月にスターゼンミートプロセッサー阿久根工場にLNGタンクを設置した。今後も環境に配慮し、社会に貢献できる取り組みを続けていく。部門別の業績は次の通り。

[食肉] 国内事業は、長引く物価高による消費者マインドの低下から、比較的安価な食肉へ需要のシフトがみられ、国産牛肉の販売に苦戦した。一方、輸入食肉は現地高や円安により価格が上昇したものの、おおむね適正価格で販売を行い利益確保につながった。また、和牛の輸出や市場ニーズに応じた商品ミックスに取り組んだことに加え、国産豚肉の販売が堅調に推移したことから、売上高・売上総利益共に前年同期を上回った。

カテゴリー別にみると、国産食肉においては、国産牛肉の販売に苦戦したが、国産豚肉の販売を強化したことで、売上高・売上総利益は共に前年同期を上回った。輸入食肉においては、現地高や円安により調達価格が高騰したため、在庫の管理を徹底し余剰在庫の発生を抑えるとともに価格転嫁を進めた。その結果、売上高は前年同期を下回ったが、売上総利益は前年同期を上回った。

輸出事業においては、台湾の展示会「Food Taipei」において同社の輸出専用ブランド「AKUNE GOLD」「AOMORI GOLD」の展示などの販売促進活動や既存・新規取引先への積極的な営業活動に取り組んだ結果、好調に推移した。

[加工食品] ハンバーグ商品群が堅調に推移したため、売上高・売上総利益は前年同期を上回った。

[ハム・ソーセージ] 原材料価格のコスト上昇を踏まえ、価格改定や商品の統廃合、工場オペレーションの改善、新商品の開発に努めたが、売上高・売上総利益は前年同期を下回った。

【役員人事】スターゼン(4月1日付)

参与経営本部副本部長(上席執行役員海外本部長) 若松威男▷執行役員製造本部長(執行役員営業本部副本部長兼FS統括部長) 奥平裕▷執行役員

〈新任〉海外本部長(理事製造本部長) 小池公一▷執行役員〈新任〉営業本部副本部長兼営業統括部長(理事営業本部営業統括部長) 小高オリエ

第2回鳥インフルエンザワクチン技術検討会を開催—農水省

農水省はこのほど、第2回鳥インフルエンザワクチン技術検討会を開催し、ワクチン接種に関する基本的な考え方について議論した。同検討会では、高病原性鳥フル発生時の殺処分による影響を緩和するため、発生数を減らし、大規模な流行が起こるリスクを低減することを目的とした予防的ワクチン接種の是非について、農水省が適切に判断するため、検討を進めている。

委員からは、今後議論を進めていく上での論点などについて、さまざまな意見が上った。

検討会の進め方については、「ワクチン接種時における発生の定義を固めて、どういう場合にワクチン接種するのかを順番立てて議論する必要がある。その議論の延長線上で、公衆衛生への影響、費用対効果についても議論するべき」「接種対象家禽、接種地域、使用するワクチン、サーベイランス、出口戦略などは課題となるので、時間をかけて議論を進めるべき」などの声が上がった。

また、ワクチン接種の実効性については、「流行株に対応したワクチンを国内で柔軟に製造できる体制

整備が重要」「ワクチン接種となった場合、国家防疫による義務的な接種となるのか、それとも任意接種になるのかも論点である。また、全国一律での接種となるのか、地域を限定した接種となるのかも論点だ」と指摘。このほか、ワクチン接種に関わるリスクコミュニケーションにおいては、「食の安全について、消費者などに説明することが重要」「ワクチン導入の判断に当たり、接種に要する費用に生産者負担もあるのであれば、生産者の意向を広く聴取する必要がある」「全国の生産者に対しては、ワクチン接種したら何が起こるか、コストはどの程度要するのかなど、丁寧に説明していく必要がある」と意見した。

なお、同検討会は、これまで、予防的ワクチンの導入に関わる技術的な論点について、2回の議論を行ってきたが、来年度以降も継続的に議論していく。議論に当たっては、テーマごとに行うこととし、議論する経済的視点や実現可能性、出口戦略などの実務的論点にも留意して進める。

福留ハムの2026年第3四半期は売上高184億1100万円 前年同期比4%減

福留ハムが12日に発表した2026年3月期第3四半期連結業績によると、売上高は、184億1100万円(前年同期比4・0%減)となった。利益については、営業損失4億7900万円(前年同期は営業損失3億2800万円)、経常損失4億5500万円(前年同期は経常損失3億100万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失1億2700万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億2100万円)となった。セグメント別の業績は次の通り。

[加工食品事業]引き続き原材料価格ならびに物流コスト・労働コストなどは上昇したが、新商品「MIRAI(無塩漬商品)」の拡販、流通向け営業を強化した結果、売上高は前年同期を上回った。また、利益については、原価低減・生産性向上に努めたものの物流コストなどのさらなる上昇により、前年同期を下回った。その結果、売上高は80億8200万円(2・

1%増)、セグメント利益(営業利益)は5400万円(71・6%減)となった。

[食肉事業]消費者の低価格志向が高まる中、輸入肉ならびに国内豚肉相場が高値かつ不安定に推移したこと、また国内牛肉の生産量が減少し商品仕入れが不安定に推移したことから、売上高は前年同期を下回った。また、利益については、食肉仕入コスト上昇を納品価格に適正に転嫁する努力を続けたことにより、前年同期を上回った。その結果、売上高は103億2800万円(8・3%減)、セグメント損失(営業損失)は6千万円(前年同四半期はセグメント損失8500万円)となった。

また、25年12月26日に公表した26年3月期通期予想について、売上高240億円(前回発表予想246億9千万円)、営業損失7億円(営業損失4億2千万円)、経常損失6億6千万円(経常損失4億2千万円)、親

会社株主に帰属する当期純利益4億1千万円(3億5800万円)に、それぞれ修正した。

修正理由について、売上高については、加工食品事業において、新商品「MIRAI」の販売増ならびに既存商品の販路拡大に努めたことから前年度比増収で推移する見込みである、一方、食肉事業においては、相場が不安定に推移したことから大きく減収になる見込みであり、下方修正する。営業利益、経常利益につ

いては、工場の生産性向上などの構造改革によるコスト削減に注力するものの、原材料や物流コスト等のさらなる上昇により、厳しい経営環境が続くことが予想されることから、前回予想を下方修正する。親会社株主に帰属する当期純利益については、第4四半期に、固定資産売却益4億6千万円ならびに投資有価証券売却益2億9千万円を計上する予定であることから、通期連結業績予想を修正した。

トーホーグループ、総合展示商談会を東京ビッグサイトで開催

(株)トーホーフードサービスは10日、トーホーグループ総合展示商談会を東京ビッグサイトで開催した。「NEXT FOOD VISION」をメインテーマに今年から新たにフードソリューションコーナーを新設。同グループによる外食産業へのトータルサポートを提案するブース設置のほか、環境配慮への取り組みとして、これまでは紙媒体で配布していたパンフレットを、2次元コードによるデジタルカタログへ変更。また、展示会内の試食備品は環境配慮型製品を使用するなどの新たな取り組みも紹介されている。この東京会場を含め、今年に入り3会場で開催しており、残り4会場の、計7回開催で7270人の来場人数を予定している(2025年実績6350人)

併せて記者説明会も開催され、(株)トーホーの奥野邦治社長(下写真中央)、トーホーフードサービスの森山隆志社長(同右)、トーホー商品戦略本部MD部の大岡充部長(同左)が出席し、開催概要を説明。概要は次の通り。

会場にはメーカー121社が出展し、ブース総数250小間を展開。うちトーホーグループコーナーは101小間、メーカー149小間で、合計約6900アイテム(うちトーホー約1800アイテム、メーカー案内約5100アイテム)が提案された。

このうち本紙関連では、素材品コーナーで畜肉素材を提案。原料のほぼ全てが高騰している現状を踏まえ「メイン食材を探せ」をコンセプトとし、牛肉ではサーロインやヒレが高騰している中、ステーキや焼き肉商材として、比較的求めやすい価格帯かつ、高品質の中落ちカルビや、ロースのカブリなどを提案。豚肉では使用頻度の高いカタロースを、国産・米国産・フランス産・チリ産など産地別の食べ比べで紹介し、さまざまなニーズに応えられる提案方法でアピールし



ている。鶏肉では、昨年同グループ入りした(株)三協食鳥が国内の銘柄鶏肉の食べ比べを行う他、手羽やモモの骨抜きや開きなど、通常店舗では人手のかかる加工処理済み商品の提案を実施。その他、羊肉、鴨や、部位としてタンなどを畜種別・産地別にPRした。

今年から新設されたフードソリューションコーナーでは、グループ企業および海外部によるトータルサポートを展示・提案。(株)エフ・エム・アイは最新スマート調理記事の展示とそれらを使用した専属シェフによる実演セミナーを実施した他、トーホー海外部による海外出展支援・食材供給サポートブースは食材・調理機器以外の提案が来場者に目新しさを与え、好評を博していた。

説明会で同社は「われわれ食材商品を扱う立場からこれから先、“外食の価値”をより高める必要が求められる場面が必ずあると思っている。提案する商品が、家庭では食べられないぜいたく感、特別感、非日常感を打ち出せる商品作りを推進していき、新たな発見と驚きを提供していきたい」と述べた。

今後の開催日程は、18日に名古屋会場(吹上ホール)25日に神戸会場(神戸国際展示場)、3月11日に熊本会場(グランメッセ熊本)、3月18日に岡山会場(コンパックス岡山)で開催を予定している。

大阪市場で全農共励会 和牛の最優秀賞はからつ前田畜産、交雑種はノースバレー

第65回農林水産祭参加表彰行事、第45回全農肉牛枝肉共励会が6日、大阪市中央卸売市場南港市場で開催された。黒毛和種111頭、交雑種30頭の計141頭が出品され、このうち黒毛和種の最優秀賞・農林水産大臣賞には佐賀県のからつ前田畜産(株)の出品牛が輝き、殖生ミートパッカー(株)がキロ当たり4129円の最高値で落札した。また、交雑種の最優秀賞には徳島県のノースバレー(株)の出品牛が選ばれ、同牛は2061円で丸富精肉店が落札した。

同共励会は大坂市場で開催される多くの共励会の中でも最大級の枝肉品評会。今大会も北海道から沖縄県まで全国25道府県からえりすぐりの上質な枝肉が出品された。

開催に当たりJA全農畜産総合対策部の佐藤勸部長が関係者に向けて謝辞を述べた後、「本日の共励会は、農林水産祭参加表彰行事にふさわしく、いずれの枝肉も全国各地の生産者が丹精込めて肥育した肉牛ばかり。購買者の皆さまには、何とぞ、畜産業界全体が活況を呈するような購買をお願いしたい」とあいさつし、枝肉競りが開始された。和牛の部に出品された111頭の黒毛和牛のうち、最優秀賞・農水大臣賞を受賞したからつ前田畜産の出品牛は、29カ月齢の去勢牛で、枝肉重量622・2kg。格付はA5等級のBMSNo.12。ロース芯面積119cm²、バラの厚さ10・6cm、背脂肪の厚さ1・6cm、枝肉歩留まり82・7%で、質量兼備の理想的な枝肉と評された。

からつ前田畜産は、佐賀県県で黒毛和牛180頭を飼養しており、過去にも多くの共励会で受賞を重ねている生産農家だが、同共励会では初の受賞となった。同社の前田勇人さんは「出来は良いと思ったが、他の生産者の枝肉も大変素晴らしいものばかりだったので受賞は幸運でうれしい。粗飼料は全て佐賀県



産で賄っており、そうした“地の利”もあったかもしれない。受賞は励みになる」と喜びを語った。

また、交雑種の部で最優秀賞を受賞したノースバレーは、徳島で交雑牛と和牛を生産する生産企業。飼養頭数は180頭(交雑牛80頭)前後と決して大きな規模ではないが、質の高い交雑牛の生産農家として南港市場では良く知られている。同社の北谷隆策社長は「やっていること自体は昔から大きく変わらないが、牛の能力も高くなっており良い成績が出ているのかなと思う。今後も頑張っていきたい」と話した。その他の入賞牛の出品者は次のとおり。

【和牛の部】 優秀賞1席 (有)岩国ファーム(山口県、3001円、購買者=殖生ミートパッカー)▷同2席 (有)ダイユー第1農場(鹿児島県、3001円、(有)セトグチミート)▷同3席 (株)中林ファーム(熊本県、3005円、殖生ミートパッカー)▷優良賞 (株)横山畜産(高知県、2852円、エスフーズ(株))、関平畜産(有)(佐賀県、2717円、タカムラ商店)、(株)桑原畜産(佐賀県、2801円、吉尾章一)、桑原陸雄(長野県、2792円、殖生ミートパッカー)

【交雑種の部】 優秀賞1席 ノースバレー(徳島、1900円、丸富精肉店)▷優良賞1席 (有)緑陽肉用牛牧場(北海道、1991円、加納フーズ)

横浜市場が「関東・東北フェア」 最優秀賞はミートコンパニオンが4001円で落札

横浜食肉市場は6日、「関東・東北フェア」(和牛の部)を開催し、黒毛和牛101頭(雌39頭、去勢62

頭)が出場した。審査の結果、最優秀賞には宮城県の横浜第一肉牛出荷組合・千葉忠畜産(株)が出品し

た去勢牛(父「福之鶴」、母の父「勝早桜5」、格付A5、BMSNo.12、枝肉重量590kg、ロース芯面積108cm²、歩留まり基準値81・3、30カ月齢)が選ばれ、(株)ミートコンパニオンがキロ当たり4001円で購買した。その他上位入賞牛は次の通り。

優秀賞 埼玉県・塚田牧場(去勢、父「福之姫」母の父「安福久」、A5、No.12、582kg、27カ月齢、3064円、富作商店)、群馬県・新和農産(雌、父「北美津久」、母の父「隆之国」、A5、No.12、508kg、29カ月齢、3181円、ミートコンパニオン)



マルイチ産商 26年3月期第3四半期決算 売上高 2266億3700万円で 11・9%増

マルイチ産商は10日、2026年3月期第3四半期決算を発表した。連結の業績は、前期11月からダイニチグループを連結範囲に加えたことや、年末年始における堅調な内食需要もあり、売上高は2266億3700万円(前年同期比11・9%増)となった。利益面は、のれん償却費と前期7月の新基幹システム稼働に伴う減価償却費が増加する一方、「中期経営計画2025」で掲げた各施策の実行による定量効果と、新基幹システムの円滑運用が進み、前年同期に一過性で発生した経費増の状況を脱したことから、営業利益は23億3100万円(129・1%増)。経常利益は26億900万円(62・3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億1100万円(78・3%増)となった。

同社グループは2030年度をゴールとする中長期的な経営ビジョンに「地域のスペシャルパートナー」を掲げ、同社グループ独自機能の提供とステークホ

ルダーの協業を通じて、日本全国の地域における食品流通の問題・課題を共に解決し、共に成長することを目指している。

セグメント別で、畜産事業は売上高349億9千万円(0・7%増)、営業利益2900万円(前年同期は4100万円の営業損失)。飼料価格の高騰などに伴う国産畜肉品の高値傾向と、円安傾向による輸入畜肉品相場の高止まりの中、製造・流通加工機能の強化に向けた食肉加工分野への重点投資を進めている。

水産事業は売上高1481億1千万円(19・8%増)、営業利益16億9500万円(187・2%増)。一般食品事業は売上高219億1500万円(1・4%増)、営業損失1億300万円(前年同期は営業損失2億3800万円)。丸水長野県水グループは売上高207億6900万円(4・0%減)、営業利益5億8300万円(1・9%増)となった。

豚井屋 TONTON、「東京 新三河島店」がオープン

ワンズライン(株)(大阪市北区、山内仁社長)は、東京都荒川区に「元祖豚井屋TONTON 新三河島店」を、17日にオープンする。

同店の豚井は、本場北海道・帯広の伝統の味を元に秘伝の甘辛ダレを使用、注文を受けてから二度焼きすることで余分な油を落とし、口いっぱい広がる

香ばしい味わいは全国のお客に好評を博している。店舗概要は以下の通り。

所在地=東京都荒川区西日暮里1-1-1、電話=03(6458)3955、営業時間=11:00~14:00/17:00~21:00、定休日=木曜

丸大食品が2026年春季新商品発表会を開催②

丸大食品が6日に行った春季新商品発表会での、新商品の説明概要は次の通り。

26年の商品政策テーマは「毎日の食卓おいしいエールを!」で、おいしさとともに、現代のさまざまなライフスタイルに沿って、求められる価値(製法・素材/時短・簡便/健康・SDGs)を乗せた商品を発売することで、人々の食生活の豊かさにつなげていきたいと考えている。「製法・素材」では、おいしさ・こだわりに磨きをかけて、笑顔になれる商品を提供する。「時短・簡便」では、より早く、より簡単に、心にゆとりを届ける商品を提供する。「健康・SDGs」では、毎日の自分・家族を想って心と体を思いやる商品を提供する。

[燻製屋] 燻製屋ウインナーでは新フレーバーとして「旨辛チョリソー」「ブラックペッパー」「とろける濃厚チーズ」の3品を発売する。ウインナーは朝食や弁当での利用シーンが多いが、夕食やつまみなどへと食シーンを拡大することで燻製屋シリーズ、ウインナー市場の拡大を図っていく。「旨辛チョリソー」は燻製屋ウインナーが元々持っている熟成のうまみに合う、辛みとうまみを兼ね備えたとうがらしを配合している。「ブラックペッパー」は、燻製されたブラックペッパーを配合し、このおいしさと燻製屋のうまみを感じてもらうために、ウインナーはライトスモークに仕上げている。「とろける濃厚チーズ」はカマンベールチーズパウダーを配合した濃厚なプロセスチーズを使用することで、チーズのうまみと燻製屋のうまみをかけ合わせたソーセージに仕上げている。

[具のつけ亭] 発売から大きな伸長を続けている同シリーズは、2025年の各月の販売金額が前年比平均134%と好調に推移している。今回は市場のさらなる活性化を図るため、新商品「蒸し鶏ほぐし」を発売する。夏場には冷やし中華やつけ麺のトッピングにもお勧めできる商品で、塩・こしょうのシンプルな味付けで設計している。また、春夏限定で「キザミハム」を今年も発売する。冷やし中華のトッピングに最適な、あっさりとした味わいのハムとなっている。

[酷暑対策商品] 2025年の夏も猛暑日が続ぎ、「酷暑」が社会問題となっている。こうした中、「暑い日は調理時間をできるだけ短くしたい」「火を使わ



ずに調理をしたい」という消費者ニーズが高まっている。これに応える商品として「サラダチキンボール」「揚 鶏つくね」の2品を発売する。サラダチキンボールは、今あるサラダチキンへの不満点である「開封時に汁が出る」「使用しない分を保存するには不便」といった問題を解消した商品。小さく丸い一口サイズのサラダチキンとなっている。「揚 鶏つくね」は電子レンジ調理が可能で、暑い中でもタンパク質を摂取しやすい商品となっている。しょうがの効いた大人向けの味わいで、食感のアクセントにれんこんを加えている。(連載続く)

【輸入牛現物相場】相場は前週維持、依然として荷動きは停滞

チルドの相場は豪州産、米国产共に前週から動きはない。前週末は全国的に積雪量が増加するなど天候の影響もあり、購買行動・商品流通に影響が出たようだ。今週に入って気候が安定しているものの、週中の祝日は連休ではないので必ずしも消費にプラスに働いてはいないようす。しかしながら冬季五輪が開

幕しており、肉食需要からカタ、モモなど赤身部位を中心にテーブルミートの需要が伸びそうだ。

フローズンも前週と変わらず相場は高止まり。相場高によって買い付けを抑制しており、余剰部位はないが、豪州産・米国产共に荷動きは決して良くない。

米国では、現地の牛肉小売価格が前年同月比20%高(25年12月時点)となっており、米国内でも消費者の牛肉離れの声がかかれる。こうした状況が続く中で日本向けの販売価格が安くなるとは考えにくく、当面相場高は解消されそうにない。

【輸入牛肉現物相場】

円/キロ

		グラス	ショートグレイ	
豪州産	トップサイド	1,480 ~ 1,530	1,550 ~ 1,600	
	シックフランク	1,400 ~ 1,450	1,480 ~ 1,530	
	アウトサイド	1,400 ~ 1,450	1,450 ~ 1,500	
	ポイント	1,380 ~ 1,430	1,450 ~ 1,500	
	ナーベル	1,100 ~ 1,200	1,250 ~ 1,300	
	ランプ	1,650 ~ 1,700	1,750 ~ 1,850	
	クロッド	1,350 ~ 1,400	1,450 ~ 1,500	
	チャックロール	1,600 ~ 1,650	1,750 ~ 1,850	
	チャックテンダー	1,450 ~ 1,500	1,550 ~ 1,650	
	キューブロール	3,400 ~ 3,700	4,000 ~ 4,500	
C	ストリップロイン	2,600 ~ 2,700	2,700 ~ 2,800	
	テンダーロイン	4,200 ~ 4,500	4,700 ~ 5,000	
	豪州産	チャック&ブレード	-	-
	豪州産	ポイント	1,400 ~ 1,500	-
F	ナーベル	1,050 ~ 1,220	-	
	カウミート	1,150 ~ 1,300	-	
F	トップサイド	1,400 ~ 1,450	-	
	シックフランク	-	-	

		チルド	フローズン
米国产	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,700 ~ 1,800	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,150 ~ 1,280	1,100 ~ 1,150
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,850 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	2,700 ~ 2,800	2,250 ~ 2,350
	ストリップロイン(チョイス)	4,300 ~ 4,800	-
	リブアイロール(リップオン)	5,200 ~ 5,500	-
	テンダーロイン	5,700 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
産	チャックアイロール(チョイス)	2,400 ~ 2,700	2,000 ~ 2,300
	同(プライム)	2,600 ~ 2,900	-

【ブロイラー市中現物相場】国産冷凍モモ引き合い強まる

◇国産物 生鮮モモは引き続き鍋用途などでの需要が堅調で、日経荷重の東京相場で840円前後の高値でのもちあいが続いている。生鮮ムネの動きはやや鈍いものの530円前後で高止まりしている。輸入物の高騰や、量販店での解凍物のテーブルミート需要などもあり、冷凍モモの引き合いが強まった。

末、春休みシーズンは需要期でもあり、高値は続く見込み。ブラジル産皮なしモモなども連動する形で値を上げている。

◇輸入物 国内在庫の逼迫が続いており、ブラジル産、タイ産、また、モモ正肉、カット物とも高止まりが続いている。人の動きの多い年度

ブロイラー現物相場 単位:円/キロ

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	680~710
ムネ正肉(〃)	410~490
手羽モト(〃)	300~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

単位:円/キロ

輸入物	
米国产モモ正肉(240gUP)	玉なし
米国产ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国产BIL	520~540
ブラジル産モモ正肉	700~720
ブラジル産モモ角切り	730~750
ブラジル産皮なしモモ正肉	730中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	700~720
タイ産モモ角切り(25~30g)	730~750
米国产モモ串	玉なし

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 2月12日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,407	2,490	-	-	-
		安値	2,192	2,160	-	-	-
		平均	2,607	2,351	2,176	-	-
	62頭	頭数	52	9	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,138	2,434	-	-	-
		安値	2,161	2,185	-	-	-
		平均	2,508	2,326	-	-	-
	121頭	頭数	110	11	-	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,080	-	-	-	
1頭	頭数	-	1	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,575	1,568	1,553	-
		24頭	頭数	-	7	10	7
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
去 B	平均	-	1,663	1,573	1,558	-	
	18頭	頭数	-	5	6	7	-
去 C	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	403 316	1,048 831	- 242.0	(競り)	(相対)	
				-	40	62

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,246	1,784	1,757	1,635	-
	B	-	-	1,498	1,538	1,360
和 去	A	2,377	2,232	2,152	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,072	1,032
	C	-	-	-	-	1,001
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,614	1,558	1,454	1,126
	C	-	-	1,489	1,434	1,050
交 去	B	1,835	1,636	1,616	1,532	1,234
	C	-	-	1,554	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	658	755	692	680	519
	安値	618	573	508	441	173
	平均	636	610	570	517	417
	頭数	(5)	(201)	(281)	(253)	(91)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	480
	安値	-	-	-	-	480
	平均	-	-	-	-	480
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(40)

[大阪食肉卸売市場] 2月12日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,511	2,346	2,037	-	-
(頭数)	(12)	(4)	(3)	(-)	(-)
B	2,264	-	-	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,464	2,284	2,119	-	-
(頭数)	(19)	(8)	(1)	(-)	(-)
B	-	2,070	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,957	1,724	1,581	1,473	-
C	-	-	-	1,447	-
交雑去 B	1,958	1,740	1,594	1,545	-
C	-	1,631	1,550	-	-
豚	-	656	637	532	457

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	2月12日	2月10日	(2月累計)
豚	72,600	72,200	547,400
成牛計	3,920	4,510	34,090
和牛雌	1,010	1,070	8,340
和牛去勢	880	1,180	8,790
乳牛雌	820	760	5,400
乳牛去勢	570	450	3,680
交雑雌	290	480	3,960
交雑去	350	570	3,920

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 2月12日

東京	1,555 円	(前日 1,608 円)
大阪	1,560 円	(前日 1,573 円)

[豚・全農建値] 2月12日

上	中	取引頭数	市況
591 円	563 円	1,395 頭	強もちあい

と畜 売買	牛 156 頭	豚 105 頭	牛概況	もちあい
	牛 100 頭	豚 171 頭	豚概況	まぢまぢ

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 2月12日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	572 (572)	- (-)	6,253	-	もちあい
仙台 [中]	528 (539)	462 (488)	344	28	続落
栃木 [地]	605 (605)	541 (505)	1,605	73	もちあい
茨城 [地]	554 (572)	536 (548)	1,441	1,127	下押し
群馬 [地]	583 (568)	518 (522)	2,544	291	反発
さいたま [中]	553 (577)	539 (547)	369	373	反落
東京 [中]	610 (605)	570 (567)	1,048	831	しっかり
横浜 [中]	611 (589)	580 (569)	674	589	反発
山梨 [地]	618 (704)	544 (671)	244	217	急落
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	617 (623)	610 (600)	998	166	下押し
京都 [中]	605 (617)	583 (605)	76	66	もちあい
大阪 [中]	656 (-)	637 (-)	105	120	まちまち
神戸 [中]	667 (631)	659 (623)	57	85	上伸
岡山 [地]	603 (624)	599 (601)	408	396	弱気配
広島 [中]	617 (664)	581 (609)	467	13	急落
福岡 [中]	635 (631)	591 (609)	583	200	小反発

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。栃木、茨城の前日は11日。

[日本食肉流通センター] 2月5日~2月11日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,707,510 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,123	1,209	1,257	1,203	67,788
うで	727	743	787	748	119,116
ロース	1,036	1,112	1,188	1,113	131,118
ばら	1,164	1,230	1,296	1,232	163,258
もも	710	756	788	745	175,754
ヒレ	1,027	1,165	1,209	1,132	23,303
セット	891	1,004	1,103	1,001	1,027,173

◇近畿圏 総重量 821,170 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,109	1,274	1,355	1,254	69,260
うで	683	707	765	716	131,902
ロース	1,080	1,166	1,199	1,149	113,541
ばら	1,117	1,255	1,374	1,243	157,124
もも	692	714	786	719	176,436
ヒレ	1,085	1,188	1,266	1,174	13,526
セット	894	999	1,089	1,005	159,381

[食鳥正肉日経相場] 2月11日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

[農水省統計情報部食鳥市況] 2月10日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,098	746	550	600	650
安値	700	450	290	360	350
平均	854	542	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる
数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全
日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

**銘柄牛肉
ガイドブック**

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

**銘柄豚肉
ガイドブック**

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、
最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする
今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ
牛枝肉・牛部分肉の見方
牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版
牛枝肉・部分肉の
分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする
食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳
DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します